

令和6年度 第1回

丹波市有償運送運営協議会

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和7年2月25日(火) 午後3時20分 開会

2 開催場所 ハートフルかすが 大会議室

3 出席者 (委員)

長田 貴	会長	大野 亮祐	副会長
清瀬 真紀子	委員	蘆田 長門	委員
谷 和 義	委員	木原 健太	委員
妹尾 陽	委員	乳原 正文	委員
永井 敏之	委員	北川 博巳	委員
上月 康久	委員	清水 徳幸	委員

委員12名出席

4 欠席者 竹内 和重 委員 新屋 敷昭一 委員
上田 脩 委員 芦田 恒男 委員

1) 開会

○事務局長挨拶

○委員の紹介

○配付資料の確認

<事前配布資料>

・会議次第

・資料1から5

<当日配付資料>

・関西大学 ヒアリング調査について

2) 会長挨拶

効率的に会議を進めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。地域交通の発展というのは地域の活性化に繋がり、人の流れができることにより、経済的効果へと繋がります。

福祉的な視点が入るとすれば、一人一人の権利を守っていく考え方の要素を取り入れながら、「抜けのないよう」「誰でもが」がキーワードの中でこの公共交通機関のシステムです。また、福祉有償運送としても、県が推進しているユニバーサルツーリズム（障がい者が誰でもどこでも行けるという環境づくり）を地域の活性化を絡めながら進めています。

その中で、この有償運送というのも障がいのある方とか、高齢者の方の自立支援という観点から、丹波市の交通システムの中で1つの大事な要素であるという期待を持ちながら、これからの発展に委員の皆様方とも協力し、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

3) 議事

(1)公共交通空白地有償運送の状況について特定非営利活動法人鴨庄「鴨庄ふれあいバス」

①運行状況等について（運行事業者から説明）

【会長】

特定非営利活動法人の鴨庄が平成21年度から運行されています。鴨庄バスは丹波市のデマンド（予約）型乗合タクシー（以下、デマンド）が運行開始される以前から始められています。その地区内の住民の方々には非常に貴重な交通手段になっています。

まずは、現在の状況について、運行されている特定非営利活動法人の鴨庄さんからご報告をお願ひしたいと思ひます。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

この事業の原点は、平成16年頃に行った住民アンケートです。当時、多くの方から「お出かけしたくても足がない」という切実な声をいただいたことがきっかけで、バスの運行が始まりました。運営には相応の経費もかかりますが、行政のご指導と温かいご支援をいただきながら、平成21年からは「有償運送」という形で、地域で守り育ててまいりました。

運行を始めた平成21年当時は、年間2,554名という多くの方にご利用いただきました。その頃は免許をお持ちでない方の利用がほとんどでしたが、時代とともにその役割も少しずつ変わってきています。現在は、免許を返納された方や、体調が優れない時に安心して移動したいという方々を支える、大切な存在となっています。

直近の状況を見ますと、1日あたりの乗降客数は約6名で、その約半数は免許を返納された方々と推察されます。今年度（4月～1月末）の累計利用者は730名で、昨年度と比べると若干の減少傾向にあり、正直なところ寂しい数字ではあります。

しかし、数字だけでは測れない価値がこのバスにはあります。住民の皆さん、特にお年寄りにとって、このバスは地域に欠かせない「大切な足」です。たとえ利用される方がお一人、お二人であっても、外に出るきっかけを支えるセーフティネットとしての役割は非常に大きいと感じています。「誰ひとり取り残さない地域づくり」の根幹として、これからも大切に続けていくべきだと考えています。

特に2年前、地区内から診療所がなくなってしまったことは、私たちにとって大きな出来事でした。免許を持たない方にとって、隣の地区の病院へ通うためのバスは、以前にも増して重要性が高まっています。

もちろん、利用者の減少という厳しい現実には頭を悩ませることもあります。ですが、現在は大学生の皆さんの知恵を借りるなど、新しい視点でバスの活かし方を考えています。振興会としても、ただの乗り物としてではなく、皆さんの暮らしを守る土台としてしっかり支えていく決意です。

将来に目を向けると、10年後には今よりもさらに高齢化が進むというデータが出ています。だからこそ、「鴨庄ふれあいバス」の出番はこれからもっと増えていくはずで、これまでの通院や買い物だけでなく、地域のイベントや趣味の集まりなど、「みんなで集まって楽しむための足」としても活用し、地域に新しい人の流れを作っていけたらと願っています。

利用者数が減っている現状には不安もありますが、これからの10年を見据え、まずは今のサービスをしっかりと守り、皆さんの暮らしに寄り添い続けていきたい。そんな願いを込めて、これまでのご報告と未来への展望とさせていただきます。

【会長】

私たちの未来のベースは過去にあります。これまでの流れを整理すると、大きな3つの変化が見えてきます。

1. 利用者の変化： かつては『免許を持たない方』の足でしたが、今は『免許を返納された方』を支える時代へと変わりました。
2. ニーズの変化： 単なる移動手段から、生活を守るための不可欠なインフラへと役割が深まっています。
3. 環境の変化： 地区内診療所の閉鎖など、地域を取り巻く状況も大きく変わりました。

これらの過去から現在への歩みを踏まえ、私たちはこれからどう進むべきでしょうか。利用者数の減少という厳しい現実ではありますが、10年後の高齢化社会を見据えたとき、このバスの役割はさらに増していくはずで、

「①運行状況等について」何か質問、意見等ありますか。

【委員】

運行の中で事故やトラブルはなかったでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

安全面についてですが、いわゆる第三者を巻き込むような大きな交通事故は一件も発生しておりません。

ただ、乗車予定の方に気づかず通り過ぎてしまったという事例がございました。また、冬場の雪道でスリップし、車両の一部を傷つけてしまったという報告も受けております。

【委員】

このルート通過というのは、少し気になります。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

ルート上のバス停を通過した際、その場に利用者さんの姿が見えなかったためそのまま進行したところ、後から『バスが来なかった』というお声をいただくケースがありました。実際にその時乗車されていた他の利用者さんに状況を確認したところ、『いつもはバス停におられるけれど、今日は確かにいらっしゃらなかった』との証言をいただくこともあります。

こうした行き違いは、利用者さんとの信頼関係にも関わるデリケートな問題です。単なるルールの徹底だけでなく、お互いに気持ちよく利用できるよう、改めて乗車マナーの周知や、確実な確認方法の検討など、地域に根ざしたバスならではの丁寧な対応を模索してまいります。

【委員】

第1便が9時30分にフレッシュバザール市島店に到着し、その後、第2便が10時15分に出発しています。1便目で買い物に来られた方は、この2便目の出発までに買い物を終えて帰宅されるという認識でよろしいでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

33番バス停「フレッシュバザール市島店」についてですが、第1便が9時30分に到着し、その後、別ルートを運行した第2便が10時15分に到着するダイヤとなっています。

利用者は、その間の約45分間で買い物を済まされています。

【委員】

第1便と第2便、それぞれの運行について、運転手は各1名ずつの体制でしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

第1便・第2便ともに、同一の運転手が運行を担当しております。

【委員】

第1便の33番バス停「フレッシュバザール市島店」から、第2便の12番バス停「I」までの区間は、所要時間5分で移動が可能です。

【会長】

私自身、有償運送の会議等で各地域を回っておりますが、共通して伺うのは「運転手の確保が困難である」という課題です。人の命を預かる責任の重い仕事であり、その確保と維持は並大抵のことではありません。

そこで伺いたいのですが、NPO法人鴨庄様において、運転手の確保や体制維持に関する現状の課題や認識はいかがでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

運転手の確保について、当NPO法人において高齢化が進んでおります。75歳を一つの区切りとして自ら引退される方のほか、有償運送の安全性を考慮し、75歳を超えた方には運転を控えていただいているのが現状です。

人員の確保については、過去に開催した有償運送講習会を通じて行い、現在は32名が登録されています。しかし、若い年代の方は本業があるため運行に従事することが難しく、実際の運行（月12～13日程度）を担うメンバーは固定化されています。

安全面については、総会時に安全講習を実施しているほか、2年前からはアルコールチェッカーを導入し、「安全第一」を徹底して運行にあたっております。

【会長】

さきほどお話のあった「若い年代の運転手」について確認ですが、具体的には30代の方々と認識してよろしいでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

30代が1名、その他50代や60代の方も登録されています。しかし、それぞれ本業をお持ちであるため、平日の「鴨庄ふれあいバス」の運行業務に従事していただく調整をするのは非常に困難な状況にあります。

【会長】

各運転手との調整が非常に難しい状況であると拝察します。有償運送の会議を行う各地

域においても、「運転手の確保」は共通の最重要課題となっています。この問題は、地域の移動手段を将来にわたって維持していく上で、避けては通れない極めて重要な論点です。運営には多大なご苦勞があるかと存じますが、引き続きよろしくお願ひいたします。

(1)公共交通空白地有償運送の状況について特定非営利活動法人鴨庄「鴨庄ふれあいバス」
②今後の取り組みについて（運行事業者から説明）

昨年4月から5月にかけて、市の地域おこし協力隊を通じて関西大学の学生4名が来訪されました。当地区の有償運送に関心を持たれ、「地区のために貢献したい」という意向のもと、計3回の現地調査と意見交換を実施しました。夏祭りへの参加などを通じて住民との交流も深めていただき、学生の視点から多くの改善案をいただいております。

提案の中には、我々では思いつかない斬新なものもあれば、資金面や実現性の面で課題があるものも含まれています。自治会長会とも意見交換を始めておりますが、現在は以下の点を中心に来年度の実施に向けて検討を進めている段階です。

- ・運行路線および運行時間の再調整（最優先課題）
- ・一部便の午後運行へのシフト（現在は午前中のみのため）
- ・車両デザインや停留所の視認性向上（興味を引くための工夫）

現時点では具体案の決定に至っておりませんが、学生の意見を参考に、現実的な改良・改正を模索してまいります。

【会長】

資料1ページの「ヒアリング調査概要」に基づき確認いたします。調査目的、方法、対象者、期間、そして詳細な調査結果と1ページ下段からのQandAがまとめられていますが、この住民の方々へのヒアリングは、学生の皆さんが直接実施されたという認識でよろしいでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

はい。学生の皆さんに住民の方々へのヒアリングをしていただきました。

【会長】

資料1ページの【調査方法】に「事前に調査した内容を基に聞き込みを行った」との記述があります。この「事前の調査」とは、具体的にどのような内容を指しているのでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

まず、学生自身に第1便・第2便へ実際に試乗してもらい、路線の現状や課題を把握さ

せた上で調査を開始しました。

その後、鴨庄地区内全8自治会を学生たちが直接訪問し、各自治会長の協力を得てヒアリングを実施しています。具体的には、高齢者やバス利用が想定される方など、各自治会より約10名ずつ公民館にお集まりいただき、対面での聞き取り調査を行いました。

【会長】

学生からの提案が、実際に運用可能な内容であるかについては、今後慎重に見極める必要があります。中には実現が難しいものや、内容を精査すべき点もありますが、若い視点や活力が地域と一丸となって将来を考えるというプロセス自体、大学と地域の連携として非常に画期的な取り組みであったと感じております。

「①今後の取り組みについて」何か質問、意見等ありますか。

【委員】

鴨庄地区にデマンドの利用者はどれぐらいですか。

【事務局】

昨年度の実績で報告いたします。鴨庄地域のデマンド登録者数は231名であり、これは地域全体の人口の約26.7%に相当します。

実際の利用状況については、令和5年度の延べ利用者数が年間323名となっております。丹波市全体の延べ利用者数26,108名に対し、当地区は323名の利用者数です。

【委員】

タクシー乗務員としての実感を踏まえて申し上げます。デマンド利用者が減少した背景には、デイサービスの普及が大きく影響していると考えています。以前は通院のために公共交通を利用されていた層が、福祉サービスの充実によりそちらへ移行したためです。

超高齢社会において、行政または事業者が単独で交通課題を解決するのは限界があります。双方が協力体制を構築し、取り組んでいくことが不可欠です。

また、利用者の実態を見ると、「往路はふれあいバスを利用し、復路は時間の都合や荷物の重さを考慮してデマンドやタクシーを利用する」といった、状況に応じた使い分けが見受けられます。

【会長】

デイサービス等の事業拡大に伴う輸送ニーズの変化は、時代の流れであり、その中で今後の公共交通の在り方を考える一助として今回の学生調査があります。

資料3ページの「ルート統合・見直し」案では、他の交通機関との連携不足や路線の重複を解消し、より効率的・合理的な運用を目指すべきとの指摘があります。

1便と2便のルート重複や迂回、その他の詳細な改善点についても、この調査結果をベースに整理されていると拝察しますが、NPO法人鴨庄としては、これらの指摘に対し現在どのようなお考えをお持ちでしょうか。今後の展望を含めお聞かせください。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

学生からの指摘にある「連携不足」や「ルートの重複」については、具体的にはJR市島駅での鉄道接続や路線の重なりを指しています。

これを受け、乗務員が利用者に直接「ルートや時間の変更」について聞き取りを行いました。しかし、「20年間慣れ親しんだ現在のダイヤを維持してほしい」という切実な声が多く寄せられました。高齢の利用者にとって、生活リズムの一部となっているダイヤの変更は、乗り遅れ等の混乱を招く懸念があります。

また、運転手の高齢化もあり、急激なルート変更は運行の安全性に影響を及ぼす恐れがあるため、時間は据え置きつつ、重複・迂回箇所の整理を優先的に検討したいと考えています。

加えて、現在実施されている丹波医療センターへの直通バス実証実験との接続についても、今後、鴨庄地区からの利便性向上の観点から協議・検討を進める必要があると認識しております。

【会長】

医療センターとの接続調整については、今後の検討事項であると認識しています。

そこで実態を把握したいのですが、市島地区の住民の皆様の動向として、身近な医療機関の減少に伴い、実際に医療センターへの通院が増えているのでしょうか。あるいは、医療センターではなく、京都府福知山市など近隣自治体の医療機関を選択されているケースが多いのでしょうか。

【事務局】

市島地域内の受診動向については、地域内の個人医院を利用される方のほか、地理的な特性もあり、丹波医療センターへ向かわれる方と、隣接する福知山市内の医療機関へ出向かれる方が一定数いらっしゃるかと伺っております。

【会長】

地域の地理的特性を踏まえ、将来どのような運行形態が必要とされるのか。利用者のニーズを絶えず振り返り、時代の変化を的確に捉えながら柔軟に再考していく必要があると強く感じております。

NPO法人鴨庄においても、こうした背景を十分に意識して運営されていることが、本日の質疑を通じて深く理解できました。

複雑に絡み合う課題に対し、即座に結論を出すことは容易ではありません。しかし、これらを今後の重要な継続課題と位置づけ、一歩ずつ検討を重ねていくという姿勢が、今まさに求められているのではないのでしょうか。

【事務局】

事務局より、デマンドとの棲み分けに関する具体的な好事例を報告いたします。

昨年、NPO法人鴨庄より「数ヶ月に一度開催される地域住民の集い（イベント）の送迎に、「鴨庄ふれあいバス」を利用できないか」との相談がありました。10名以上のまとまった移動をデマンドで対応しようとする、特定の時間に予約が集中し、市島地域の他の方々の利用を阻害する恐れがあります。そこで、兵庫陸運部へ照会したところ、「鴨庄区域内の許可路線であれば、臨時便としての運行に特段の届け出は不要である」との回答を得ました。

これにより、「鴨庄ふれあいバス」を「地域住民の送迎」として弾力的に運用することが可能となりました。これは、自ら運行主体となっているNPO法人鴨庄ならではの強みを活かした好事例であり、デマンドとの適切な役割分担を示すモデルケースであると考えております。

【会長】

本件は非常に優れた先行事例であり、今後の指針とすべき内容です。

今後も様々な局面で調整が必要となる場面が出てくるでしょうが、「調整は難しい」と諦めるのではなく、「どうすれば最も効果的な調整が可能か」を常に問い続ける姿勢が重要です。今回の事例は、そのための大きなヒントであったと思っております。

【委員】

資料2ページの「登録番号または会員名」という記載からも、乗客と乗務員が互いに顔の見える関係であることが伺えます。そこで、実際の利用者層について詳しくお聞きしたいと考えます。

デマンドでは、80歳代以上の方が中心で、買い物や通院といった日常的な利用が主となっています。

「鴨庄ふれあいバス」においても、同様に80歳代以上が主流なのでしょう。また、利用頻度は「毎日」あるいは「週1回」など、どのような方がどのような目的で利用されているのか、具体的な利用者像を教えてくださいませんか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

利用者の中心は高齢者の方々に、主に70代後半から80代くらいの方々です。

また、最近の傾向として、昨年あたりから運転免許を自主返納された方が新たに2名ほ

ど増えており、その方々も貴重な移動手段として継続的に利用していただいております。

【委員】

関西大学の学生による調査報告では、女性の利用者が多いという記載もありましたが、現場での実感としてはいかがでしょうか。やはり利用者の大半を女性が占めているという状況でしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

利用者の内訳については、やはりスーパーへの買い物目的で利用される女性を中心です。一方で、免許証を返納された男性の方も、時折利用していただいています。

【委員】

男性利用者が「たまに」という現状の中にも、多様な利用パターンがあり、そこに解決の鍵が隠されているのではないのでしょうか。

デマンドでは把握しきれない、「どのような方が利用し、車内でどのような会話を楽しみ、どのような様子で過ごされているか」といった現場の生きた情報を共有することが重要です。

そうした「お顔の見える関係」から得られる気づきを積み重ねていくことで、より創造的なアイデアが生まれるはずです。この会議内で事例共有し、連携していくことが、これからの課題解決には不可欠であると考えます。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

学生と共に自治会や公民館を巡り、ご高齢の男性を含む住民の方々にアンケート調査を行いました。その中で浮き彫りになったのは、地域の男性特有の「自尊心」や「周囲の目」という壁です。

「ふれあいバスには乗ってられない」「人目が気になって利用しづらい」といった、公共交通の利用を「気恥ずかしいこと」と捉える傾向が根強く残っています。こうした心理的な抵抗感をどのように解消し、男性にとっても『乗りたくなる』あるいは『乗っても良い』と思える環境を作っていくかが、今後の普及における大きな課題であると痛感いたしました。

【会長】

男性の方々の反応を伺い、逆に安堵する思いもございます。高齢化は進んでいても、自尊心を守り通すほどの活力が地域にはまだ溢れているのだと感じました。利用促進は進めたいところですが、それほどまでに「頑固」でいられるのは、ある種の力強さの表れかもしれません。

その上で、もう一点確認させてください。乗客名簿の属性についてですが、現在は高齢者が中心であると伺いました。一方で、通常の自家用有償旅客運送の会議では、障害者手帳の有無や介護度といった情報も共有されます。今回提出された資料のみでは判別が難しいため、わかる範囲で結構ですので、障がいをお持ちの方や介護認定を受けられている方の利用状況について教えていただけますでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

当バスの運用方針として、基本的には障がいをお持ちの方や介護を要する方の乗車は想定しておりません。

【会長】

障がいをお持ちの方や介護を要する方々はどのように移動されているのでしょうか。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

介助を要する方々の移動については、福祉部門が所管する「おでかけサポート」等がその役割を担っています。

「鴨庄ふれあいバス」の運転手は、福祉に関する講習を受講しておりませんので。

基本的な方針として、ご自身で安全に乗降できる方に限定してご利用いただいております。

【会長】

つまり、「鴨庄ふれあいバス」で対応しきれない部分を、福祉の「おでかけサポート」が補填（補完）しているという理解でよろしいでしょうか。

単一の運行事業だけでなく、地域全体のトータルな交通システムとして考えたとき、おでかけサポートがその隙間を十分にカバーできていなければ、移動支援としては不十分と言わざるを得ません。

自主運行バスと福祉輸送が、地域の中でどのように連携し、機能しているのか。その実態については、また改めて詳しく報告を伺いたいと思います。

【委員】

デマンドが普及する以前から、地域自らがこうした運行に取り組んできたという意欲の高さには、改めて深い敬意を表します。

加えて、大学生が地域に入り、これほど詳細なデータを収集・分析した事例は非常に稀であり、素晴らしい取り組みです。学生たちの熱意に対し、我々大人が「ルートの再編」という形で具体的な方向性を出し、目に見える結果としてお返しすることが重要であると考えます。

具体的な改善点として、バス停の目印の設置やマップの整備は、すぐにでも検討すべき課題です。また、アンケートに見られる「厳しいご意見」も真摯に受け止めねばなりません。まずは自治会単位で一度「試乗」していただくなど、利用の心理的ハードルを下げる工夫も必要でしょう。

広告収入による収益確保や、ライフピアいちじまへのバス実証実験に合わせた市島駅周辺のルート再編など、複数の施策を掛け合わせながら、次世代に繋がる形を構築していきたいと考えます。

【運行事業者（NPO法人鴨庄）】

ルートの再編については、現在私の方で案を作成している段階ですが、まだ振興会内部の自治会長会等にお諮りするには至っておりません。今後、案を提示する過程で各地域から様々なご意見をいただくことになると想定しておりますので、それらを丁寧に集約しながら検討を進める予定です。

また、運営を支えるための新たな試みとして、利用者の目的地となっている診療所やスーパー、歯科医院などに対し、広告料や寄付という形でのご支援をお願いできないかと考えております。これについては振興会としての方針が固まり次第、速やかに各施設への働きかけを開始する考えです。

さらに、利用者の方々からは「12枚綴りを10枚分の価格で発行してほしい」といった、回数券の割引率に関する切実なご要望もいただいております。こうしたお得感の向上による利用促進についても、持続可能な運営を維持していく上での大切な検討課題として取り組んでまいります。

【会長】

今回の大学生による調査が一度きりで終わることなく、今後も継続的な関わりを通じて地域発展への協力を得られることを期待しております。提案の中には「AIロボット」の活用といった、我々の日常的な実践の中ではなかなか思い至らないような、非常に独創的な視点も盛り込まれていました。これは単に有償運送の範囲に留まらず、地域の活性化に向けた新たな可能性を示唆するものです。

例えば、資料に挙げられている地区規模の囲碁大会のような催しを通じて、住民同士の繋がりを深めると同時に、有償運送に関する情報の共有を図るといったアイデアも、地域特性を活かした「きっかけづくり」として検討の価値があると感じました。これら全ての提案を即座に実行に移すことは容易ではありませんが、提供された貴重な題材を「当面取り組むべきこと」「長期的に考えていくこと」「一旦据え置くもの」といった視点で整理し、優先順位をつけていくことが重要です。

学生の皆さんから提供された素晴らしい資料を最大限に活かし、今後の有償運送会議やこの協議会の場においても、より発展的な議論を重ねていければと考えております。

4) その他

【事務局】

来年度の体制についてご連絡いたします。現在の委員の皆様は、活性化協議会と同様に、令和7年3月31日をもって満了となります。次期となる令和7年4月1日以降につきましても、引き続き委員としてのお力添えをお願いしたいと考えております。なお、組織内の異動等に伴い、やむを得ず委員が交代される場合には、お手数ですが事務局までご連絡をいただけますと幸いです。

5) 閉会

【副会長】

本日は、自家用有償旅客運送に関する協議ならびに活性化協議会と、長時間にわたり熱心にご審議いただき、誠にありがとうございました。

私自身、自治会長会の会長を務めておりますが、本日の議論を通じて、地域の課題を自らの手で解決しようとする鴨庄地区の皆様の並々な熱意を強く感じました。通常、地域の課題が浮上すると、まず行政への要望が先行してしまいがちですが、本日伺った前向きな取り組みや視点は、真の意味での地域づくりに資するものとして、今後大いに役立てていきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、年度末をもって任期満了を迎えられる方もいらっしゃるかと存じます。次期におきましても、変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。